

3 花 き

項 目	作 業 内 容
(1) デルフィニウムの生育初期の管理	(今月の作業のポイント) ○デルフィニウムの生育初期の管理 ○シクラメンの管理 ○ユーカリの収穫 9月中旬に植え付けた‘さくらひめ’(写真1)は、12月中旬から1番花を出荷できる見通しである。12月～翌6月に連続出荷するためには、9月中旬～11月上旬に2週間間隔で定植を行う必要がある。どの定植時期においても生育初期管理は共通しており、次のア～ウに留意する。特に定植後10日までの管理が重要であり、管理の仕方で採花時期や品質に差が生じる。  写真1 定植直後の‘さくらひめ’ ア かん水管理 定植から1週間は土壌を乾かさないようにし、その後は徐々に水を控える。 イ 施肥管理 活着後(定植後約1週間)に、窒素：リン酸：カリ＝1：1：1程度とした液肥を、窒素濃度 100 mg/L (ppm) に希釈して施用する。風の強い日は葉からの水分蒸散が増大するため、葉水によるしおれ防止を心がけ、生育を促進させる。初期の肥料が多いと生育不良になるため、土壌分析を実施し EC が 0.3～0.5 ds/m の範囲になるようにする。 ※希釈倍率の算出 $\text{倍率} = \text{成分}(\%) \div \text{希釈濃度}(\text{ppm}) \times 10,000$

項 目	作 業 内 容
(2) シクラメンの管理 (3) ユーカリの収穫	ウ 温度管理 デルフィニウムに適した温度帯は昼温 25℃・夜温 15℃であり、10 月は適温に近い日が多い。しかし気温の変化がまだ大きく、10 月上旬は高温に、反対に 10 月下旬は低温に気を付ける。換気やサイドの開閉により温度を調節し、10 月中旬以降は夜温が 10℃以下にならないよう保温する。 病虫害では、うどんこ病、バッタ類やヨトウムシ類、ナメクジ、ホコリダニの防除を心がける。 10 月中旬以降は夜温が低下するため、15℃以下にならないよう保温・加温を行う。また、ハウスを閉めると灰色かび病の発生が多くなるため、暖房機の送風ファンや循環扇等で空気を循環させる。 肥培管理は、窒素：リン酸：カリ＝2：1：3 程度とする。窒素濃度で 75～100 mg/L (ppm) の液肥を基本に、株の状態を見ながら施用する。また、幼葉の生長と花芽の充実、花首の徒長防止、さらに鉢のバランスを良くするために、月 1 回は葉組みを行う。併せて、病害の発生源となる枯れ葉を除去する。 10 月以降、芽の先端が固まった枝から収穫する。収穫後、枝物用の鮮度保持剤を使用し、清潔なバケツ等で速やかに水揚げ処理する。

(作成 農林水産研究所)